



豊野小・中学校だより

第7号(令和7年8月29日)



豊野小・中学校
ホームページ

～「共感する力」、「伝えあう力」、「考動力」～ 小学校 150人 中学校 87人 計237人 文責 鬼塚

前期後半スタート

8月10日からの豪雨による河川の氾濫や土砂崩れなどにより被害を受けられた方々に心からお見舞い申し上げます。学校施設には被害がなかったものの、児童生徒の通学路は路肩やのり面が崩れるなどしているところもあり、雨の激しさを物語っていました。一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

さて、夏休みが終わり、前期後半がスタートしました。大きな事故やけがもなく、子どもたちは命を守る安全な行動をしてくれたようで嬉しく思います。前期後半も職員一丸となり、「チーム豊野」で子どもたちのためにがんばります。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

宇城市『少年の主張』大会

6月28日(土)の「宇城市『少年の主張』大会」に、中学3年生の荒田恋々菜さんが学校代表として参加しました。その作文を紹介します。

「私の中の差別心」

宇城市立豊野中学校

荒田 恋々菜



自分では日頃、差別はしていないと思っていても、もしかすると心のどこかに差別心があるのではないかと思ったことがあります。それは、ハンセン病についての学習をした時のことです。病気が原因で、自分の家族にも避けられたという話を聞いて、絶対におかしいと思いました。しかし、私が患者さんの家族の立場だったらと考えた時に、周りの偏見から自分自身を守るために家族であっても患者さんを避けてしまったり、正しく理解しようとせず、差別してしまったりするかもしれないと思ったからです。

勉強するなかで、差別や批判する人ばかりではなく、正しく理解しようと考える人たちがたくさんいることを知りました。宿泊拒否事件の後に励ましの手紙を書いたりできるような温かくて心に寄り添える人たちです。この人たちは、周りの偏見に流されない強い心や人を思いやる優しい心を持っているから、差別された人を支える行動ができたのだらうと考えました。行動に移すことができる人が増えると、周りの困っている人に寄り添うことができる温かい世の中になっていくと思います。私も差別をするのではなく、差別をなくしていく行動をし、もし差別が周りであったとしても、止めるような行動をとることができる人になりたいです。では、どうすれば、そのような人になれるのでしょうか。

私の生活を振り返ってみると、これまで、相手のことを勝手に決めつけていたことがありました。今までの人権学習などで、差別はいけないことだとよく感想に書いてきましたが、授業中に班を決める時に、「あの人はいつもふざけているから、同じ班になりたくない」と、自分の心の中で決めつけていたことがありました。どれだけいけないことだと分かっているのに、無意識に差別をしていたのです。しかし5月に行われた運動会の練習や本番で大きな気づきがありました。それは、いつもふざけていると思っていた人が、誰よりも真剣にそして一生懸命に頑張っていたのです。一番大きな声を出したり、他の人への指示をはっきり出したり、下級生に優しく教えたりするなど、私がこれまで思っていた印象とは全く違っていました。私が知らなかったところがたくさんあるということに驚きながら、今まで私が持っていた印象は、本当は正しいものではなかったのかもしれないと考えました。

人権学習などでいじめや差別は絶対にいけないことだと学んだつもりでも、実際は心のどこかに小さな差別心があって、それがたくさん積み重なって大きな差別につながるのかもしれないと思いました。ハンセン病患者さんに対する差別や他の差別ももしかすると同じようなことかもしれません。「本当のことを知らない・分からない」から差別をしてしまうのです。ただ表面に見えていることだけで、勝手に判断してしまい、誰かを傷つけてしまったり、差別したりすることになるのかもしれないです。だから私は、これからは、人のことや世の中のことを勝手に決めつけるのではなく、まず本当のことや本当の気持ちをしっかり理解するために、自分から話しかけて、相手を知る機会をつくったり、正しい情報や知識を自分で探したりして判断したいです。そして、たくさんの人に温かく寄り添うことができる人になりたいです。もし周りの人が勝手に決めつけていたら、「それはおかしい」と自信を持って言えるような、正しい行動をしていきたいです。みなさんも、自分の心の中を見つめなおし、温かい心を持っている人たちであふれる世の中をつくる仲間になりませんか。